

こどもたちと織り上げる

アタラシイ カタチ

新しい形

Vol.15
2026 冬

やまとこども園
はじめてのクリスマス

自分の手型をとり、
目と鼻も貼って作った
帽子を被ってニコリ！
サンタさんに驚きながらも、
プレゼントをもらいました。

「世界でたったひとつの
トナカイさんの帽子だよ」



社会福祉法人
ア・タ・ラ・シ・イ
カ・タ・チ

<https://atarashii-katachi.or.jp>

やまとこども園 やまとこども園 mimi 昭和やまとこども園 鶴舞やまとこども園
やまとこども園 hug やまとこども園 chouchou 西大寺北こども園 三笠保育園

当法人では人格形成に大きな影響を与える乳児期に着目し、保育アドバイザーの水野ゆか先生とともに新たな取り組みをスタートさせました。やまとこども園の2歳児の保育室の様子や、保育教諭の声も紹介しながら、乳児保育の大切さについてお伝えします。

探究心や協調性が芽生えるコーナー保育

乳児期から子ども主体の保育を行うと、自分で考えて行動することが当たり前になっていくもの。その結果、幼児期の探究的な遊びの幅が広がり、やり抜く力や人を思いやる心を伸ばし、小学校に入ってからの学習面や友人関係も安定すると言われています。

そこで、当法人の園で乳児保育のさらなる充実を図るために、乳児保育に詳しい水野先生を招聘。現在はやまとこども園、やまとこども園chouchou、やまとこども園hugを中心に、水野先生と保育教諭たちが話し合いながら、はじめてのことにも前向きに挑戦しています。

こどもファーストの乳児保育

0・1・2歳の経験が未来を豊かに生きる力につながる



から保育室の環境と保育の進め方を変更。保育室内を遊びのジャンルごとに仕切り、登園した子どもたちは興味をもったコーナーに行き遊びはじめます。各コーナーを自由に行き来していろいろな遊びや活動に取り組み、給食やお昼寝のタイムや気持ち重視。「決して放任しているわけではありませんが、複数の保育教諭の分担がしやすく、広い保育室より一人ひとりに目が行き届く、子どもにとって安心な環境です。子ども主体の保育では、集団生活に必要な力も身につきますのでご安心を」と水野先生は教えてくださいました。



活動の様子を見てメモを取り、保育教諭に質問する水野先生。より楽しく遊ぶヒントもくれる先生は人気者です。



やまとこども園
2歳児
りんご組

目隠しのある安心な場所で手早くおむつ交換を行うおむつ替えを見られるのは、乳児にとっても抵抗があるもの。子どものプライベートゾーンを守ります。



想像力が膨らむ玩具が揃い友だちとの会話も楽しい棚から好きな道具を自分で取り出しておままごと。友だちや保育教諭と関わり、遊びが広がります。



愛情を注ぐ保育教諭と思考力や集中力を育むブロックで車などを作る遊びに夢中に。泣く子どもを保育教諭がやさしく抱きかかえる場面も。

給食後は各コーナーにふとんを敷いて随時お昼寝タイムへ

給食前に各々おもちゃをもとに戻し、保育教諭が手早く机を片付けてふとんを敷きます。給食が終わって眠くなった子どもから、ふとんでごごろと。

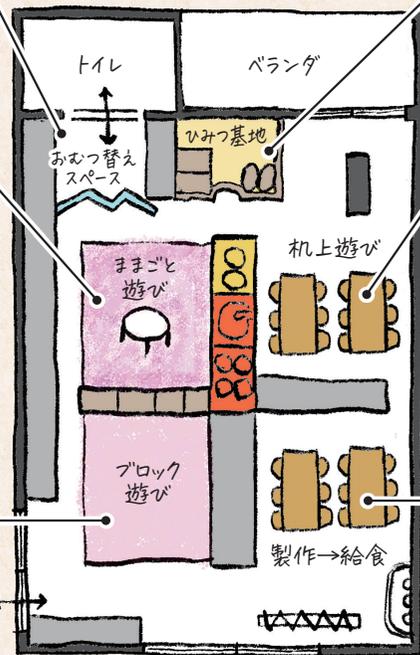


ダンボールに囲まれたワクワクおこもり空間中にはひとり用のダンボールハウスが！ひとりでほっこりしたいという思いにも応えます。



自分で選んで行動する

コーナー保育へ
保育室が変わりました！



※やまとこども園の2歳児保育室のレイアウト(2025年11月現在)



手先を動かしながら日本語や英語にもふれるアルファベットのシールを貼ったり、ワークシートに取り組んだり。保育教諭手作りのものなど、子どもの興味に合わせてさまざまな教材が登場。



少人数ごとに製作を楽しんだら給食へと移行

画用紙に綿を貼って湯気を表現するなど、いろいろな素材で作品をつくります。製作後は保育教諭が清潔にし、給食スペースへと早変わり。





やまこども園の2歳児の保育室。保育教諭たちが笑顔で声をかけ合い、給食からお昼寝の流れもスムーズ。「しっかり連携が取れていますね」と水野先生からお褒めの言葉が。



やまこども園の0・1歳児の保育室は、園庭に面したウッドデッキにつながる間取り。外で遊びたい子どもは保育教諭と一緒にウッドデッキに出て、活動的に遊びます。



保育アドバイザー
水野 ゆか先生
※本文内は敬称略

見ながら進められます。保育室の環境を変えるなら早い時期のほうがよいと考えていたので、2歳児の保育教諭たちは水野先生の来園を心待ちにしていました。子どもたちも水野先生を歓迎しています。コーナー保育を取り入れたことで、製作時にきめ細やかに対応できるようになりました。興味を持った子どもから少人数で取り組むので、あまり時間を気にせずに一人ひとりの様子をよく見ながら進められます。

水野 保育は子どもの成長に合わせて変えていくものですから、これからも楽しみながら取り組んでいきたいと思います。



ほかの園でも乳児がすくすくと成長中!

開園当時から丁寧な保育を続け、水野先生のアドバイスも受けて保育室の見直しを行った鶴舞やまこども園。2歳児はしたい遊びを見つけられる環境のもと、したい遊びを存分に楽しみ、友だちとの関わりも深まってきています。身の回りのことを自分で取り組もうとする習慣も身につけてきました。当法人では来年度以降も全園で乳児、そして幼児保育をより充実させる取り組みに力を注いでいきます。



水野先生と保育教諭のミーティング。コーナーを仕切る棚の高さから衛生管理、保育教諭の声の大きさまで、さまざまな意見が飛び交います。

慣らし保育がスムーズ 1対1の時間も増えた
—新しい方法で乳児保育をはじめた頃の様子?—
吉村 私も当初は不安でしかなかったです。昨年度までは、0歳児と1歳児で保育室を完全に分けていました。これからは同じ空間で過ごすということ、慣らし保育が長引くのではと想像していましたが、実際は例年よりも長く泣き続ける子どもが少なかったです。水野先生から



2歳児クラス担任サブリーダー(リーダー代理) 大林 保育教諭

は1週間を振り返りながらアドバイスをいただいているのですが、1週間で子どもがみるみる園に馴染んでいることがわかりました。
水野 保育室内にはコーナーごとに違うおもちゃが置いてありますので、登園した子どもたちは、自分が興味のあるおもちゃに心が動いて夢中で楽しんでいきますよね。

水野 皆が同じ製作の経験ができるように、「やってみようか」と上手に誘っていますよね。自分だけに声をかけてもらえると嬉しいものですよ。
山本 1歳児は4月はよちよち歩きでしたが、裸足保育を続けたことでふんばる力がつきました。今ではできることが増え、何でもやってみようという意欲も育まれています。

保育教諭同士が連携し 保育を楽しんでいる
—今後の展開は?—
大林 保育教諭たちからは「ゆったり過ごせるスペースを作ろう」「おままごとハウスもあるといいよね」など、次々とアイデアが出ていて、実行に移しているんですよ。
吉村 今が完成ではなく、まだまだ工夫したいですね。
山本 「保育には終わりがない」と言われますが、本当にそうだなと実感しています。

「想像以上によかった」と実感!

水野先生と保育教諭3人が語る、気づきとこれから

保育教諭たちはどのような思いで、乳児保育の充実を図っているのでしょうか。保育アドバイザーの水野先生と、やまこども園の保育教諭たちに話を聞きました。



やまこども園の0・1歳児の保育室。この時期は子どもの月齢に関わらず個々の成長に違いが出るため、0・1歳合同のコーナー保育にし、同じ発達段階の子ども同士で安全に遊べるようにしました。

落ち着いた保育室で 自主的に動くように
—2、3ページで紹介したように、乳児クラスでは保育環境や保育の進め方を直しました。ズバリ、変えてみてはどうですか?—
吉村 私は特に給食の時間の雰囲気がよく変わったと感じています。今までは一斉に給食をとっていたので、食べ終わって待っている子どもが多くなると「早く全員の給食を終わらせなければ」と焦るころがありました。
大林 今は食べたい子どもから給食をとり、食べ終わったらトイレを済ませてお昼寝をはじめます。待つ時間がなくなったため、以前よりも子どもたちは落ち着いて過ごしていると感じますね。
水野 保育教諭たちはより穏や



0歳児クラス担任リーダー 吉村 保育教諭

かな気持ちで、子ども一人ひとりと向き合えるようになりました。子どもたちは0歳児でも、給食が運ばれてきたら、自らおもちゃを置いて手を洗いに行こうとします。自分で状況を理解し、見通しをもって行動できるようになっているのがすごいですよね。
山本 私は1歳児の担任リーダーに就いた今年度の春から、乳児保育を大きく変えるということで、最初は不安を抱えていました。しかし、今はクラスの保育教諭全員が心にゆとりをもち、子どもたちにやさしく話しかけています。私自身も走っている子どもに対して、「頭ごなしに「ダメよ」と言うのではなく、走ってしまっ原因を考えて環境を見直す余裕が生まれています。



1歳児クラス担任リーダー 山本 保育教諭



プラスチックチェーンをおままごとで食材に見立てたり、電車ごっこに使ったり。イメージする力が養われています。



「水野先生から客観的な視点で指摘を受け、ハッとさせられました」と保育教諭たち。「いつも『試してみます』という姿勢で、頼もしく感じています」と水野先生。



築山におもちゃを並べたり、水を流したりと工夫しながら遊ぶ子どもたち。久保さんは「滑り台付きの築山もよいのですが、滑り台ばかりで遊ぶのは避けたいと思いました」と言い、あえて余白を残した設計に。ブルーシートを使用することで、築山を滑る面白さも味わえます。築山トンネルでは、小さな子どもたちがくつろぐ愛らしい様子も。取材中、久保さんから「園庭にクローバーを植えると土壌もよくなりますよ」という提案が。保育教諭からは「木の実などでままごをするキッチンコーナーをつくりたい」「ひとりでホッとできるおこもりスペースもいいな」などのアイデアが次々と。昭和やまこども園の園庭は、これからも柔軟に変化していきます。

もご期待ください。

「私たちが保育を実践する現場の先生方と一緒に園庭をつくることに重きを置いています」と同社の久保さん。同社との研修では、まずは保育教諭たちが子どものころに楽しかったことを思い出し、園庭に取り入れたい要素を書き出して発表。その内容を踏まえて同社がプランを作成し、植える植物について保育教諭たちが意見を出し合う時間も。園庭が形になっていくから、遊びを広げる方法について、同社からアドバイスを受けました。

「『キレイすぎる』と言われたのが目から鱗でした。子どもたちが草や虫にふれてのびのびと挑戦する姿も見て、あえて雑草を残し、カタチが変わっていく園庭は好奇心をかきたてるのだと考えさせられました」と川北主幹保育教諭。同社からは、園庭で安全に遊ぶ方法についても教わりました。「今まではケガにつながるのでは」と思い、ストップをかけることもありました。しかし、アドバイスを受けてからは、子どもがやりたいことをできる限り見守り、『そのアイデアはいいね』などと、楽しく遊ぶための言葉をかける保育教諭が増えましたね」と名迫主幹保育教諭。



登る・横になる・ぶら下がる・隠れるなどの動きを楽しめる遊具や、揺れる動きで体幹を鍛えられる遊具を設置。雲梯と登り棒もあり、子どもたちの体力向上にも役立っています。



ハンドルを上下に動かすと水が出るガチャポンプ。最初は仕組みがわからずに不思議そうにしていたのですが、自分たちで操作しながら考え、友だちと分担して水を汲むように。

昭和やまこども園を訪ねて

理想の園庭づくりプロジェクト 保育教諭たちと一緒に育む 「アタラシイ園庭ノカタチ」

昨年秋より新園舎での保育を開始した昭和やまこども園では、保育教諭たちが計画段階から参画して新しい園庭づくりに取り組んでいます。園庭のプロデュース事業を展開する企業担当者と主幹保育教諭2人の声を交えながら、「あえて雑草もいかに」園庭について紹介します。



築山の上からの見晴らしは最高！1歳児が幼児についていき、はじめての遊びにチャレンジする姿も見られます。

変わりゆく自然こそ 遊びと学びの原点

地域の野生生物が暮らす場所を意味する「ビオトープ」。この言葉が生まれたドイツには、園庭遊びの動線上にビオトープを取り入れている幼稚園がたくさんあります。気候によって毎日変化する自然のなかでの遊びを通して、すべてのものや人が異なることに気づき、一人ひとりを大切に思い、相手を尊重する気持ちが芽生える子どもたち。

この様子を目にした当法人の生田理事長は「自然そのものが遊びと学びの場である」との思いを強くし、昭和やまこども園の園庭づくりでは、株式会社スマートエデュケーションに協力を依頼。同社は遊びを通して自然の不思議さや面白さ、美しさに出会う空間「ASOBIO(アソビオ)」を園庭に設置する取り組みを各地で行い、高い評価を得ています。

園庭での保育活動に よい変化が生まれている

「私たちは保育を実践する現場



株式会社スマートエデュケーションのナビゲーター・久保 翔太郎さん(中央)と、昭和やまこども園の川北主幹保育教諭(左)、名迫主幹保育教諭(右)。

「『キレイすぎる』と言われたのが目から鱗でした。子どもたちが草や虫にふれてのびのびと挑戦する姿も見て、あえて雑草を残し、カタチが変わっていく園庭は好奇心をかきたてるのだと考えさせられました」と川北主幹保育教諭。同社からは、園庭で安全に遊ぶ方法についても教わりました。「今まではケガにつながるのでは」と思い、ストップをかけることもありました。しかし、アドバイスを受けてからは、子どもがやりたいことをできる限り見守り、『そのアイデアはいいね』などと、楽しく遊ぶための言葉をかける保育教諭が増えましたね」と名迫主幹保育教諭。



トンネル付きの築山の周りには実がなる木々などを植え、築山の奥には水が出るガチャポンプと、主に幼児が遊ぶ砂場を配置。右側には遊具を並べたゾーンと乳児用の砂場もあります。



園長や主幹保育教諭だけでなく、若手からベテランまでが参加した研修の様子。理想の園庭についてプレゼンを行い、保育教諭のワクワク感も高まってきました。

おうちでつくろう！ 森のたからもの スノードーム



三笠保育園の5歳児が、お散歩で集めた松ぼっくりなどの自然素材を使った製作を楽しみました。冬のひとつとき、インテリアに最適なスノードームを作りませんか。

用意するもの



- 炭酸飲料用の1.5L丸型ペットボトル(ラベルより上部のみを使用。カッター等でカットしておく)…1本
- 厚紙(ペットボトルの切り口よりも少し大きめの丸型にカットしておく)…1枚
- 紙粘土 ●木工用ボンド ●松ぼっくり…1個
- どんぐりなどの自然素材 ●毛糸(ふわふわ、キラキラしたものがベスト。適当な長さにカットしておく) ●カラーぼんてん ●特大ビーズ
- リボン(適当な長さにカットしてリボン結びにし、結び目の裏面に両面テープを貼っておく)

1

スノードームって
キレイだね



絵本『サンタさんのまほうのスノードーム』の読み聞かせて、ワクワク感がUP！どんぐりの種類などについて知るクイズも行い、大盛り上がり。



2

「自分がほしいものを選んでいいの!？」と言い、材料を一つひとつ吟味します。



3

丸めて平らにした紙粘土を、ボンドで厚紙の真ん中に貼ります。紙粘土の上にもボンドを塗って松ぼっくりを固定したら、飾りつけをしていきます。



毛糸は先に巻き
付けるといいよ

4

どんぐりやぼんてんなどの飾りを手に取り、一つひとつにボンドを付けて松ぼっくりに乗せます。飾りつけが終わったら、ペットボトルの切り口にボンドを塗布し、松ぼっくりが乗った厚紙に接着。子どもがペットボトルの切り口をさわらないように、大人が注意を払いましょう。



最初は
難しかったけど、
コツを掴んだよ!



紙粘土で
作った土台

発表時には「早く眠れるスノードームを作りました」など、絵本の世界観を連想させる会話が飛び交いました。

できた!



5

リボンの両面テープを剥がし、ペットボトルのキャップにベタツ。



どんぐりの片側にぼんてんを付けて、帽子を被ったどんぐりを表現したり、「かわいい!」と喜んだりする姿が印象的でした。木の枝や実、綿、スパンコールを使用するのもオススメです。



現在、社会福祉法人 アタラシカタチでは一緒に働く仲間を募集しています。新卒、キャリア採用(転職・復職をご検討の方)、実習、ボランティア、施設見学の受付を行っておりますので、右記ホームページのお問い合わせフォームもしくはお電話にてお気軽にお問い合わせください。

社会福祉法人 アタラシカタチ <https://atarashii-katachi.or.jp>

〒 639-1123 奈良県大和郡山形市筒井町 145-1
やまとこども園内

採用担当: やまとこども園 mimi 園長 木下
(TEL. 0743-61-5705)



HP



Instagram